

部会と関係機関が一丸となったアスパラガス産地の育成

鈴木章文（東三河農林水産事務所農業改良普及課）

【平成29年10月18日掲載】

【要約】

豊川地区では、地域一丸となってアスパラガスの産地づくりに取り組んでいる。安定生産・収量の向上、担い手の確保といった課題に対して、部会活動の強化、安定生産技術の確立、新規栽培者の確保・育成を進め、産地規模4.2ha、部会員数32名、販売金額1.2億円の産地が構築できた。

1 はじめに

豊川地区では、平成17年にJAひまわりアスパラガス部会を結成し、地域一丸となって産地づくりに取り組んでいる。安定生産・収量の向上、担い手の確保といった課題に対して、部会は関係機関（農業改良普及課、JAひまわり、豊川市）と力を合わせ、部会活動の強化、高収量生産者の栽培管理の「見える化」による安定生産技術の確立、新規栽培者を確保・育成するための体制づくりに取り組んだ。

2 産地づくりの取組

（1）部会活動の強化

部会は、結成以来、年数回の部会全体の研修会・ほ場巡回指導会、年3回の支部活動を実施していた。しかし、アスパラガスはこの地区で新たに取り組んだ品目であったことから、技術の確立や普及が進まず、安定生産や収量向上が課題となった。そこで、部会員が参加しやすく、少人数でしっかり意見交換・情報交換ができる支部活動を毎月1回に強化した（写真1）。



写真1 支部活動の様子

この支部活動の強化によって、優れた栽培方法やノウハウが多く発掘された。特に、他品目から転換した生産者がこれまでの経験で培った技術や工夫をアスパラガス栽培に生かしており、その取組が支部活動で発掘され、産地の安定生産・収益性向上に寄与した（表1）。具体例を一つあげると、元オオバ生産者の使用していた「塩ビパイプ管」により安定したかん水ができることが、支部活動の中で確認された。この技術を農業改良普及課が全体研究会で紹介した結果、約6割の農家が「塩ビパイプ管」や「スミホース」を導入し、安定したかん水ができるようになった。

表1 他品目から転換した生産者の技術の発掘

転換前の品目	提案があった技術
オオバ	塩ビパイプ管によるかん水
ミカン	整枝の方法、作条の見直し
イチゴ	立茎のタイミングの見分け方
輪ギク	フラワーネットの活用による省力化
トマト	IPM技術

（2）高収量生産者の栽培管理の「見える化」による安定生産技術の確立

農業改良普及課とJAひまわりは、安定して出荷している部会員21名について、3か年の栽培管理と出荷のデータを集めて解析を行った。その結果、保温開始時期が早いほど3

～5月期の出荷量が多く、翌年の出荷量が多くなることが明らかとなった。

また、このうち10a当たり単収3 t以上の高収量者4戸は、保温開始時期が1月下旬～2月中旬と早く、4月の立茎のタイミングが良く、夏期高温期に十分な施肥かん水を行い、高収量を確保していることがわかった。

これらの結果を元に栽培管理マニュアルを作成し、技術を「見える化」した。栽培管理マニュアルを用いて研究会等で技術改善を進めた結果、10 a 当たり出荷量の部会平均は平成28年/平成23年対比で、3月期が約2倍、7月期が約1.4倍に向上し、総出荷量は1.5倍 (2.7t/10a) に向上した (図1)。

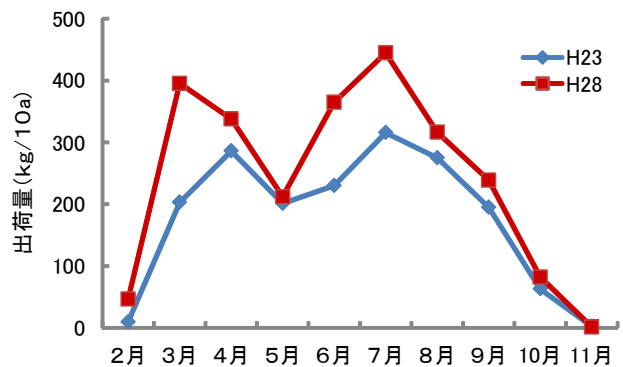


図1 部会の月別10a当たり出荷量の推移

(3) 新規栽培者を確保・育成するための体制づくり

新規栽培者を確保するため、農業改良普及課、JAひまわり、豊川市、部会は、それぞれ、新規就農者や品目転換を考える農家に対してアスパラガス栽培を働きかけた。

さらに、確保した新規栽培者を育成・定着させるため、平成26年から、部会及び関係機関による重点指導体制を作った (図2)。栽培開始から2年間、地域ごとの支部活動や個別巡回を通じて濃密な支援を行っている。

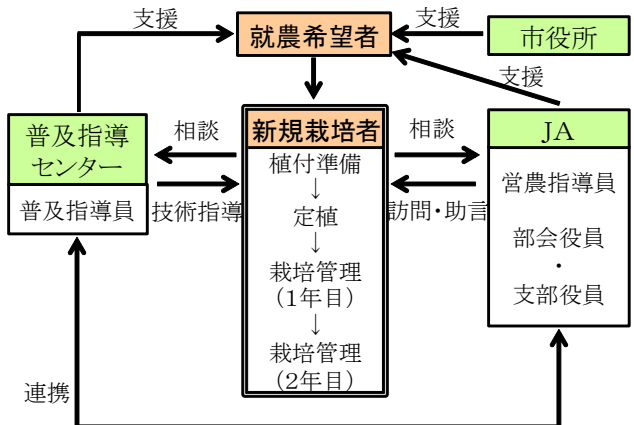


図2 重点指導体制

今年度は、6名の新規栽培者が栽培を開始することを受け、この体制のもと、さらに勉強

の機会を増やして、体系的に指導することとなった。座学とほ場巡回の「新規栽培者研究会」を年4回開催し、栽培講座、ほ場準備、定植後の管理などの支援を実施している。

3 まとめ

部会と関係機関が一丸となり産地づくりを実施した結果、平成28年実績で産地規模4.2 ha、部会員数32名、販売金額1.2億円のアスパラガス産地が構築できた。

- ①支部活動の強化で情報交換が活発になり、組織の活性化と生産技術の普及が進んだ。
- ②高収量生産者の栽培管理の「見える化」により安定生産技術が確立され、部会の10a当たりの単収は、平成24年作の2.1tから平成28年には2.7tに向上した (図3)。
- ③平成24年から平成29年までの6年間で新規栽培者11名が確保できた。また、新規栽培者の定着に向けた育成では、濃密な

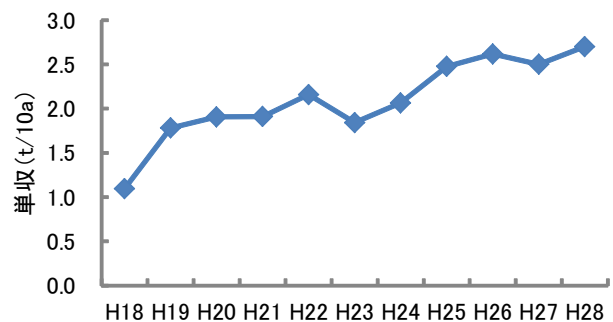


図3 部会の単位収量 (t/10a) の推移

支援を行う重点指導体制を構築した。

4 今後の課題

産地の収益力を向上させるため、単収3t/10a未満の部会員の底上げ、担い手の確保・育成に向けて、アスパラガス主体専業農家の育成、女性や定年帰農者の確保・育成をさらに進めることで、産地の拡大を図る。

Copyright (C) 2017, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.